

コワモンゴキブリ（ゴキブリ目）の福島県での出現

Appearance of *Periplaneta australasiae* (FABRICIUS) (Blattaria) at
Fukushima Prefecture, Japan

北田博一*・久保田 信**

熱帯・亜熱帯に広分布するコワモンゴキブリ *Periplaneta australasiae* (Fabricius) は体長32 mm 前後で、ワモンゴキブリ *P. americana* (Linneaus) に似ているものの和名の通りやや小型で、前胸背板に黄白色の環状紋の輪郭が明瞭であり、前翅の基部に黄色い条紋があるのが特徴である。コワモンゴキブリは九州、愛知、東京、札幌で発生した記録があり、暖房設備のあるビル、レストラン、地下街、病院をはじめ下水道のマンホールやゴミ処理場、水洗便所の腐敗槽などに生息する。成虫の寿命は4~6ヶ月で、平均24個の卵が入った卵鞘を10日間隔で合計20~30回産む。幼虫期間は約半年~1年である（イカリ消毒）。今回、福島県の1施設に本種の成体が出現したので報告する。

出現地点 〒972-8326 福島県いわき市常磐藤原町蔵平50 スパリゾート・ハワイアンズ
採取日時 1個体（図1）を2013年5月19日20時に北田が採取

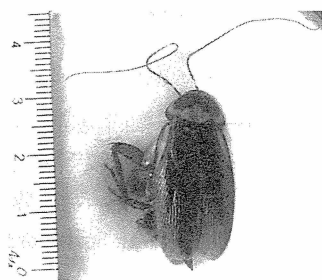


図1 福島県に出現したコワモンゴキブリ

考察

スパリゾート・ハワイアンズは2011年3月11

日に発生した東日本大震災時に被害を受け、その後1ヶ月後の4月11日に当該施設付近を震源とする余震で施設の全機能が停止した。そのため2012年2月8日までの約1年間、施設の温調設備が停止したため、熱帯植物が枯れ、冬季にはかなりの低温になった。2012年2月上旬の再運営とともに、新しく植物を搬入した。その時に本種が当該施設に運ばれたものと考えられる。よって本種は少なくともこの1年以内に発生したといえる。なお、和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所構内やその付近では、ワモンゴキブリは、昨今の地球温暖化などで今や普通種になっている（樫山・久保田, 2002; 久保田, 2006, 未発表）。

引用文献

イカリ消毒:

<http://www.ikari.jp/gaicyu/02020d.html>

樫山嘉郎・久保田 信. 2002: 和歌山県白浜町産の熱帯系ゴキブリ類 3種(ゴキブリ目, ゴキブリ上科). 南紀生物, 44(2), 153-154.

久保田 信 2006: 「宝の海から 白浜で出会った生き物たち」. 233pp., 紀伊民報, 田辺市.

* (〒972-8316 福島県いわき市常磐西郷町 忠多6-46)

** (〒649-2211 西牟婁郡白浜町459)

京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所